

パスファインダー (Path finder) 第18号

世田谷区の「空襲」

—東京の空襲と世田谷— (1942年～1945年)



東京の空襲 (1942.4.18～1945.8.15
約130回) 少なくとも被災者300万人
損害家屋77万戸 死者10万人
負傷者13万人規模の甚大被害。都下数
値は諸説ある。/1945年3月10日は
東京東部を中心に被災者100万人以
上に及び東京大空襲とも呼ばれる。
世田谷区の空襲 (11回以上) 被災
者46235人、損害家屋11680戸(建物
疎開含まず)、死者行方不明113人、
負傷者706人 出典「地図でみる世田谷」

メディアで目にする苛烈なミサイル空爆の現実。
日常が一瞬にして廃墟と化し、かけがえのない命と希望が奪われ、
戦火を逃れてもなお、悲嘆と困苦の長い道のりが続きます。
「せたがやの空」でかつて実際にあった空襲の記録で、戦争の悲惨
をより身近に想像し、考えを深くする一助となればと思います。

世田谷区立図書館 編集・発行 協力:世田谷区立平和資料館

1 キーワード 太平洋戦争、空襲、東京大空襲、学童疎開、東京都 歴史、世田谷区 歴史

2 図書・資料をさがす

図書館内OPAC(利用者用検索機)では「テーマ」、図書館ホーム
ページの資料検索では「件名」で入力。複数組合せも有効です。

膨大な資料情報のごく一部の例示です。あなたの考える戦争と平和を他にも見つけてみてください。
資料によっては巻末・章末に典拠資料の掲載があり、調べの展開に役立つ場合もあります。

(1) 戦災・空襲の記録 【太平洋戦争：1941年～1945年】

世田谷区の編纂資料 (区史の一部に記載)

- ・『世田谷近・現代史』世田谷区 1976年(002620742) 区の統計数値あり
- ・『せたがや百年史 上巻』世田谷区 1992年(003325578)
- ・『世田谷^{おうこらいこん}往古来今 第2版』世田谷区 2018年(005914515)
- ・『地図でみる世田谷』世田谷区立郷土資料館 2017年(005871318) 被害状況を図表化

カッコ内の
9桁数字は
区立図書館
の書誌番号

東京の空襲について 約130回のべ4900機から約1万1千発の爆弾、38万9千発の焼夷弾の投下と言われる。

- ・『東京大空襲・戦災誌』(全5巻)東京空襲を記録する会 1973年(第1巻002543935)
体験記録集、公式記録集、報道著作記録集、都民生活記録集など
- ・『東京大空襲の全記録』石川光陽写真・文 岩波書店 1992年(002795620)
時系列に整理の空襲グラフィック・レポート
- ・『図説東京大空襲(ふくろうの本)』早乙女勝元 河出書房新社 2003年(003898408)
- ・『東京大空襲の記録』東京空襲を記録する会 三省堂 2004年(004023570) 初刊1982年
- ・『東京都戦災誌』東京都 2005年(004164621) 都民生活の具体的被害・影響記録に詳しい
- ・『東京大空襲 - 未公開写真は語る - 』NHKスペシャル取材班 新潮社 2012年(005135070)
敗戦直後に秘蔵されていた多量の写真検証
- ・『東京空襲下の生活日録 - 「銃後」が戦場化した10カ月 - 』早乙女勝元 東京新聞 2013年
(005290336) *早乙女氏(2022年5月ご逝去)は他に「東京大空襲」(岩波新書)など著書・編集多数
- ・『東京空襲写真集 - 決定版 - 』東京大空襲・戦災資料センター編 勉誠出版 2015年
多数の写真記録と巻末統計あり(005458819)

- 『東京大空襲・戦災資料センター図録 - いのちと平和のバトンを - 』東京大空襲・戦災資料センター編 2022年(006362659) 全95頁の概要版
- 『語り伝える東京大空襲 - ビジュアルブック(全5巻)』東京大空襲・戦災資料センター編 新日本出版社 2010・2011年(第1巻004915703) 児童書だが一般書としても通ずる
- 『東京大空襲 戦時下の市民生活』江戸東京博物館編 1995年(006396709) 生活用具等を詳細掲載



語られる空襲

4頁の世田谷区立平和資料館にも多数の関連記録があります。

空襲は、疎開児童や戦災孤児など、無辜(むこ)の弱い立場の人たちにも容赦なく大きな犠牲と深い心の傷を与えています。

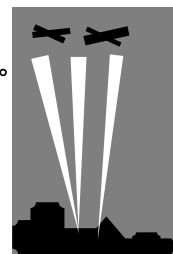
- 『今、語り継ぐこと - 平和都市宣言五周年記念 戦争体験記録集 - 』世田谷区 1992年(003174691) 区内外の空襲の項がある。

『太子堂の空襲 - 昭和二十年五月二十四日・二十五日 - 』2005年(005957477) 体験住民からの丹念な聞き書き集。世田谷の空襲の実像を知る貴重な証言。「どこをどのように逃げたかは定かではないが…」(疎開先から帰ってみると)三軒茶屋は焼け野原でした。太子堂住民有志による編纂

- 『あんずの木の下で - 体の不自由な子どもたちの太平洋戦争 - 』小手鞠るい 原書房 2015年 学童疎開から取り残された肢体不自由児の養護学校(現 都立光明学園 松原6丁目)の児童たちと奔走する人々。知られざる世田谷の空襲の実話。児童書だが一般書としても通ずる。(005523535)
- 『戦争と子どもたち - 世田谷区の学童疎開 - 』世田谷区 1992年(003326154)
- 『世田谷区教育史』世田谷区教育委員会 通史編 1996年(003164701)資料編6 1993年(003164700) 当時の学童の生活や疎開などを国民学校ごとにも詳細に記録
- 『学童集団疎開 - 世田谷代沢小の記録 - 』浜館菊雄 太平出版社 1971年(002364674)
- 『奥沢国民学校の学童集団疎開』世田谷区立教育センター 2000年(005746133)
- 『鉛筆部隊と特攻隊 - 近代戦争史哀話 - (改訂新版)』きむらけん えにし書房 2019年 信州松本への世田谷疎開児童たちと、そこで出会った特攻隊員たちとの知られざる哀話(006110082)
- 『子らへ - ひとりひとりの戦争 世田谷語りべ広場の記録 - 』三宅和子ほか編 1986年 様々な戦争体験を綴った小冊子 学童疎開も記載(003156006)
- 『「駅の子」の戦い - 戦争孤児たちの埋もれてきた戦後史 - 』中村光博(幻冬舎新書) 2020年 全国各地で孤児達は過酷な境遇と差別のもと、戦後社会に息絶え、生き抜いた。(006130858)

(2)文化人の著述 当時はまだ郊外に属する世田谷ならではの戦時下の光景が描写されています。欠乏と喪失の時代、文人・知識人どうしの往還交流は意外に多かったようです。

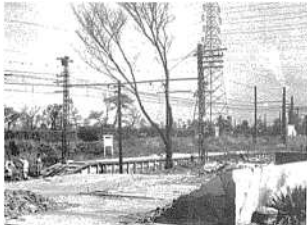
- 『海野十三敗戦日記』海野十三(1897~1949)中央公論新社 2005年(004160959) 若林在住。日常化する空襲警報の中、日本SF小説の父といわれる理工系の海野は冷徹な観察を続けつつ、直撃空襲に合い防空壕との行き来に明け暮れる。世田谷での克明な戦災生活記。初刊1971年
- 『東京空襲』一色次郎(1916~1988)河出書房新社 2011年(004985795) 下北沢在住。空襲警報サイレンと敵機音と焼夷弾。人々の不安な暮らしぶりを詳細描写。敵機を探す夜空のサーチライトが、北沢の家並みを青白く浮かび上がらせる。早乙女氏と「東京大空襲」を編纂の小説家。初刊1967年
- 『経堂日記』有馬頼義(1918~1980)瑞穂社 1946年(005256933) 館内閲覧のみ(絶版) 経堂在住。直木賞作家。社会派推理小説でも活躍。色川武大、渡辺淳一、澤地久枝など多数の若手作家を育てた。経堂日記では激しさを増す空襲下の生活を抑制のきいた筆致で綴り、8月15日、静かな夜雨の叙述でこの日記は終わる。終戦直後の混沌期に急ぎザラ紙で出版。
- 『敗戦前日記』中野重治(1902~1979)中央公論社 1994年(002877859) 世田谷2丁目在住。手控え風の日記。端的な生活記録には1941年からの戦況推移も伺える。社会活動歴による保護観察下、頻繁な官憲呼出しと幼い長女の育児に苦勞。日毎に空襲記載が増えていく。豪徳寺、代田、赤堤、三茶、経堂など界隈の記述も多い。召集先の信州上田で終戦。没後発見の日記の一部。
- 『炭焼日記』柳田国男(1875~1962)日本図書センター 2005年(004098497) 成城在住。大民俗学者の終戦前後の2年間の日記。当時、燃料不足を補うため自ら炭焼き竈を自宅庭に作った逸話からの表題。この経験が後の民俗学展開に反映。静謐な暮らしの中に自然への深いまなざしや、並外れた古典文献への精通ぶりが伺える。8月15日は「大詔出づ、感激不止」とある。当時70歳。ちくま文庫刊もあり。初刊1958年 書誌データは「柳田国男 炭焼日記 (人間の記録170)」



- 『志賀直哉全集 第11巻』志賀直哉(1833~1971)岩波書店 1973年(002359460)
新町在住。手製カレンダーへの書込みメモを所収。来客や座談会など所用に交じり来襲敵機の数を書き記す。1945年4月24日は「午前29(B29のこと)百二十機来る 結婚式」とある。
*「志賀直哉展」(世田谷文学館編)に、師事した作家達の戦時下での新町交流が詳しい。

- 『太平洋戦争日記 3』伊藤整(1905~1969)新潮社 1983年(002479774)
上祖師谷在住。終戦前1年余りの日記部分。空襲下の世相と庶民生活を克明詳細に記述。評論・小説家の伊藤は出版社幹部として単身在京。3月大空襲を免れてのち疎開先の北海道で終戦。当時の知識人の冷静な戦況認識と洞察力が身辺雑記の中からも伝わってくる。

- 『榎家の人びと 第3部』北杜夫(1927~2011)新潮社 2011年(004985215)大正初期から終戦までを舞台に、青山脳病院(世田谷区松原)の一族をモデルとする大叙事詩。斎藤紀一・茂吉と続く病院の栄枯盛衰と翻弄の歴史を孫の著者が小説に。自身の苛烈な空襲被災は青山だが、半焼廃墟となった世田谷の病院の荒寥たる心象風景が終章に描かれる。初刊1964年



空襲のあと(現世田谷代田駅付近)
建物が残っていない。「世田谷往古来今」より

- 句集『花影』(「中村汀女俳句集成全一卷(002463595)」収録)
中村汀女(1927~2011)下北沢在住。名誉区民。羽根木公園の句碑
『外にも出よ ふるるばかりに春の月』は終戦直後の句。食糧難や家族の苦境下、空襲のなくなった静かな月明りに清明な感動が宿る。

* その他、東京の空襲を扱った作品の一例

- 『植草甚一日記』植草甚一(1908~1979)1945年1月1日~8月15日の日記文を所収。空襲が日常化する中、文化的な都会生活は意外にも東京で粛々と残っていた。1945年3月にも文芸映画の上映あり。ジャズ、ミステリー小説など造詣深いモダン・ポップ文化の巨匠、散歩の達人。戦後長く経堂在住。
- 『わたしの渡世日記 上』高峰秀子(1924~2010)大女優による日本エッセイスト・クラブ賞作品。成城居住。当時下宿人の市川崑が庭に防空壕を掘る。戦争の無惨さと人々の悲哀が達意の文章で短く綴られ、当時の芸能人の生き様も洞察される。
- 『東京焼盡』内田百閒(1889~1971)他の百閒作品とは少し趣を異にし、都や国内各地の空襲を緊迫感もって綴る。「本ものの空襲警報が初めて鳴ったのは昭和19年11月1日である」の書出しから微細な記述が始まる。独特の哀切とユーモアが随所に滲みでる。
- 『戦中派不戦日記』山田風太郎(品川・目黒)、『東京の戦争』吉村昭(日暮里)、『ガラスのうさぎ』高木敏子(墨田区本所・神奈川 二宮町)【児童文学】、『15歳の東京大空襲』半藤一利(墨田区向島)【中高生にも】などもよく読まれている関連作品です。
- 『戦争中の暮しの記録』暮しの手帖編(1969年)雑誌特集の寄稿を書籍化。高度成長期のさ中、あえてつらい過去を振り返る企画に夥しい数の手紙が全国から寄せられ、共感の輪の中で自ら戦争を語ることの意義が見出された。「もはや戦後ではない」から十余年経ってもなお、皆は戦争を決して忘れてはいなかった。4頁の世田谷区立平和資料館にも多数の関連記録があります

3 インターネットでさがす 太平洋戦争記録の伝承 (空襲関連)

いずれも無料
ウェブサイト

- * 東京大空襲・戦災資料センター <https://tokyo-sensai.net/> (東京都江東区北砂1丁目5-4)
2002年開館の国立民営施設 東京空襲を世代間で伝え続け、膨大な資料・伝承記録を保有・展示。
- * NHK 戦争証言アーカイブス <https://www2.nhk.or.jp/archives/sensou/>
太平洋戦争を様々な角度から映像的に検証。「戦争証言アーカイブス入門 戦争を知ろう!空襲」、「市民の暮らし(空襲)」や「教育活用」のためのコーナーなどがわかりやすく整理されている。
- * Yahoo! JAPAN 未来に残す戦争の記憶 <https://wararchive.yahoo.co.jp/content/archive70/tokyo310.html>
全国の空襲データと多くの体験談の動画収録を紹介。初めてこの空襲を学ぶ方にもわかりやすい。
- * 朝日新聞デジタル「声 語りつぐ戦争」 <https://www.asahi.com/special/koe-senso/>
戦争を生き延びた大勢の方々の体験談を丹念に記録。大空襲に関しても多く記されている。「二度と戦争を起こしてはならない」という切なるメッセージが伝わってくる。
- * 川崎市平和館(文字入力検索をおすすめします)
世田谷区平和資料館と運営協力関係にある川崎市立の施設(川崎市中原区木月住吉町33-1)
防空壕体験コーナーなど市民目線の展示企画も特徴。特に甚大被害を受けた東京東部と川崎市の状況を対比することでその中間に位置する世田谷区の戦災への考察を深めることもできる。

4 世田谷区立平和資料館（愛称 せたがや未来の平和館）

ぜひ、いらしてください。
HPもどうぞ

世田谷区は1985年に「平和都市宣言」をしています。

所在地：池尻1丁目5番27号 世田谷公園内
TEL 3414 1530 FAX 3414 1532

開館日時：午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
休館日 毎週火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日～1月3日）



交通案内：東急世田谷線、田園都市線 三軒茶屋駅 徒歩18分
東急田園都市線 池尻大橋駅 徒歩18分
東急バス「自衛隊中央病院入口」バス停 下車すぐ



太平洋戦争終戦から70年目、平和都市宣言30周年の2015年8月に開館。

愛称は「せたがや未来の平和館」です。戦争の悲惨さと平和の尊さを伝え、恒久の平和を願う取り組みを続けています。また、現在の状況を踏まえ、未来の平和を展望することを目標としています。



- * 常設展示 写真・地図や戦争当時の品物などによって、テーマごとにわかりやすく展示し、世田谷の戦時中の暮らしの様子を身近な方たちで学べます。子どもから大人までどの世代にも伝わる内容です。
- * ライブラリー 太平洋戦争をはじめ平和に関する図書やDVDなどを見ることができます。区民本人が実体験を話す「語り部DVD」シリーズを作成・所蔵。また、当時の国民学校の学童疎開記録や区内と全国各地・海外での戦争体験の文集・記録など、貴重な資料がそろっています。

その他、資料館は未来の平和に関する企画イベントや他自治体との連携など、幅広い活動をしています。

【所蔵資料の一例】 その他、多数所蔵しています。

空襲の手記	「B29 玉川へ」「戦火の青春」「東京大空襲・地域住民の生活」「目のあたりにした東京大空襲の惨禍と船橋での空襲体験」「学童疎開の思い出」など
語り部DVD	「戦時中の生活の様子」「代沢国民学校の疎開生活」「私が体験した長崎の原爆」「私の戦争体験（駒沢練兵場近く在住）」「縁故疎開を通して」など

ライブラリーの資料は、区内在住・在勤・在学または隣接市区に住所のある方を対象に、原則として館外貸出をしています。

（編集後記）1945年空襲・終戦当時の13歳は今年で90歳。昭和期を半生とする区民は、戦争の時代を生き、耐えた世代です。戦後の復興と今日までの社会発展の礎を築いたのも同じその人々でした。犠牲者や物故者を含めその一人ひとりの人生にこそ戦争の真実があり、平和への希求があります。ご紹介の資料・情報は例示としてのごく一部に過ぎませんが、戦争が単なる「情報」や「過去の出来事」ではなく、私たちの社会の今日ある意味と未来への希望を照らす光源として、これからの世代に語り継がれることを切に願います。

- 戦争によって人間は被害者になるが、同時に傍観者にもなりうるし、加害者になることもある。そこに戦争の恐ろしさがあるのです - 半藤一利『戦争というもの』より